



障がいのある人が学ぶための奨学金

NEWS LETTER

ニュースレター

No.01
2024年

【しずおかTIP-OFF奨学金】2023年～2024年の歩み

2023年

5月25日(木) 特定非営利活動法人『静岡市障害者協会』総会にて、障がい者のための奨学金設立のための寄贈を受諾。奨学金設立が承認される。

5月26日(金) 奨学金設立準備会発足

6月22日(木) 第1回 企画運営委員会(運営委員5名)

8月24日(木) 第2回 企画運営委員会

奨学金の名称決定:【しずおかTIP-OFF奨学金】

9月21日(木) 第3回 企画運営委員会

10月4日(水) 第4回 企画運営委員会

10月12日(木) 【しずおかTIP-OFF奨学金】募集開始の記者会見

10月15日(日) 第1回【しずおかTIP-OFF奨学金】

募集開始～2024年1月31日(水)まで

2024年

1月23日(火) 第5回 企画運営委員会

1月31日(水) 募集締め切り 21名の応募

2月9日(金) 第1回 奨学生選考委員会(第6回企画運営委員会)

2月27日(火) 第7回 企画運営委員会 受給生5名確定

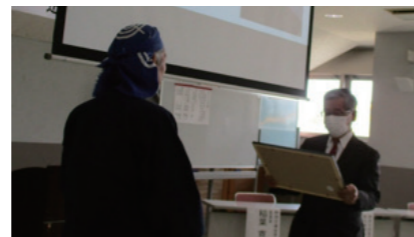
2月29日(木) 第1回 奨学金給付生5名に通知

3月20日(祝・水) 奨学生との親睦会 ホテルグランヒルズ静岡にて

5月10日(金) 第8回 企画運営委員会 2025年度募集要項などを討議開始

6月28日(金) 第9回 企画運営委員会 ニュースレター発行の検討、確認

9月20日(金) ニュースレターNo.1を発行



奨学金設立が承認



記者会見



第1回奨学生選考委員会



奨学生との親睦会

ごあいさつ

しずおかTIP-OFF企画運営委員長 静岡福祉大学学長 増田 樹郎



ティップオフ(TIP-OFF)ということばは、通常はバスケットボールのゲーム開始時に行うジャンプボールを指しています。他方で、TIPとは古くは感謝のしるしとしての「心づけ」(いわゆるチップ)をも意味したようです。奨学金を英語で表記すればスカラシップ。この語源は「学問に取り組む人」を意味しており、学問を志す誠実な生き方を表しています。

顧みて、人生の大切な選択肢の一つとして大学等に進学したいと願うことは、夢の実現の第一歩にほかなりません。この春、TIP-OFF奨学金は、第1期の奨学生5名を選考しました。一人ひとりの眼の輝きをとおしてこの制度のもつ意義を確信しました。

静岡県内に住む大学等に進学を志す人なら誰でも応募できる仕組みですが、条件は「障がいがある」かどうかです。長らくこうした条件下にある人の進学が閉ざされてきたことを慮って始めました。第1期には21名の応募がありましたが、これから末永く多くの人々に活用してほしいと願っています。TIP-OFFというささやかな贈り物が学びへのはじめの一歩になりますように。

障がいがあっても大学等で学びたい、を応援します

特定非営利活動法人 静岡市障害者協会会長 牧野 善浴



人生の10代後半から20代は青春まっさかりで、多くの人が大学等に進みます。でも障がいのある人が大学に行くといえば、「それは偉い」、「頑張ってるね、大変でしょう」などと言いながら「障がいのある人が大学に行ってどうするの」と思われています。障がいのある人は、税金で福祉の支援を受けるか、家族の世話になっているのだから、大学に進学するのは贅沢だ、などが本音ではないでしょうか？

障がいがあると、清く、正しく、美しく、生きなければならないのでしょうか？

最近、国連から日本の諸制度は父権主義的だと指摘されています。大学等で学びたいと思っても、障がいがあると見えない壁が多いこともその一つ。世間の人あまり気付いていません。親世代の皆さんはその頃、親のすねをかじって大学生活を謳歌していたか、苦学して学んでいたか、社会に出て稼いでいたかもしれません。学びたいという意欲があるのに障がいを理由に進学をあきらめるのは理不尽です。

当協会は幸運な巡り合わせと地道な努力によって、多額の寄付をいただき、しずおかTIP-OFF奨学金を始めました。今年、奨学金を受けて大学生活を謳歌している障がいのある学生は5人います。その生の声を聞いてください。障がいある人の「もっと学びたい、経験を積みたい、仲間を作りたい」の気持ちを大事にし、応援しています。諦めないでお気軽に相談して下さい。



編集・発行

しずおかTIP-OFF奨学金企画運営委員会

事務局：静岡市葵区安東1-2-3 マロンコート安東

Mail: tip.off.kikin2023@gmail.com Tel:080-7357-4874

ホームページ <https://shizu-shokyo.org/shougakukin/>

本 部：特定非営利活動法人静岡市障害者協会



「しずおかTIP-OFF奨学金 第1回奨学生からの手紙」

夢の大学生活

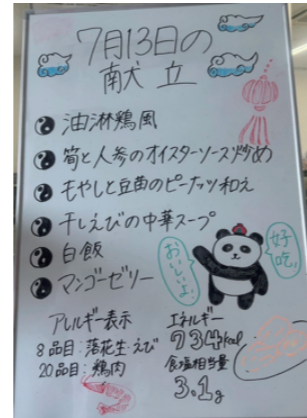
A.A (21歳) 精神障害 常葉大学健康栄養学科

私は食と健康に興味があった為、栄養学を専攻し大学へ入学しました。大学では栄養に関する専門的な知識を、日常から臨床の範囲まで幅広く学びました。体が食べ物を代謝する仕組み、そのために必要な栄養素など自分でも知っているようで知らない事が沢山あり、毎日が新鮮であつという間に過ぎていきます。大量調理実習演習では実際に大学の食堂にて100食分の昼食を作りました。

衛生管理、栄養素の算出、食材の発注など業務は多岐にわたり、座学では学べない現場の雰囲気や帳票類の事務作業、調理、指示技術など多くのことを学びました。自分には余裕をもって先を見通す力・決断力が必要だと強く感じました。

また、私は教職課程を追加で受講したため、普段の勉強との両立が大変でしたが、教職でのコミュニティは通常より打ち解けたアットホームな雰囲気で楽しかったです。

そんな中で、自分にとって一番の刺激となったことは尊敬する教授に出会えたことです。価値観や経験など人間的に本当に目標となる先生で、心から出会えたことに感謝しております。現在は先生のゼミに入ることが出来、ゼミ活動として臨床栄養の視点から健康寿命延伸に寄与する宅配弁当システムの構築を目的とした弁当開発を行っています。少しでも多くの人の健康を栄養面からサポート出来るよう日々励んでおります。



給食実習で、自分たちで考えた献立の案内プレート



給食実習で作った献立

大学生活の様子

ペンネーム：こたつ 筑波技術大学2年

私が在籍している筑波技術大学は、視覚や聴覚に障害を持った学生が在籍しており、全国からはもちろんですが、外国から学びに来る方もいます。そういった友人が多くでき、さまざまな情報や刺激を受けつつ、毎日楽しい学生生活を送っています。

私が学んでいる分野は鍼灸師の資格を取得するための専門的な学習をしていますが、敷地内に病院があり、そこで働いている医師や鍼灸師の方が授業を担当されています。ですので、より詳細で専門的な知識を学習することができています。

敷地内には寄宿舎もあり、そこで共同生活をしています。食事を一緒に作って食べたり、学習や雑談をしたりして普段できない共同生活をしています。サークル活動では、視覚障害者スポーツも盛んにおこなわれています。フロアバレーというスポーツのサークルでは、40人程度参加しており、みんなで一緒に汗を流しています。体育館にはトレーニングジムやランニングマシンも完備されており、気分転換に運動をして体力の向上に努めています。大学は、さまざまな面で良い環境が整っています。そういった環境の中で大学生活を送れることがとても幸せだと感じています。



夢に向かって

D.M. (18歳)

この度は、しずおかTIP-OFF奨学金の1期生に採用していただき、誠にありがとうございます。心より御礼申し上げます。

私は、大学に入って初めて受けた心理学の講義が大変興味深く、人の感情や行動のしくみについてもっと学びたいと思うようになりました。今後は心理学を幅広く学んでいき、ゼミでさらに専門的な研究をしたいと考えています。そして将来は、臨床心理士の資格を取り、相談者の心に寄り添って問題解決の手助けになるような仕事がしたいという新たな夢ができました。

私は、先天性の病気で歩行が不自由なことで、他にも疾患があるため、進学には不安がありました。しかし、奨学金をいただいたおかげで、実家から通うことができています。私の大学は完全バリアフリーの校舎で、講義を受ける上での支援も先生や職員の方と相談して対応してもらっています。遠距離通学のため疲れますが、新しい友人と話したり、留学生とのイベントに参加したり、楽しく充実した毎日を送っています。

このような貴重な機会を与えてくださったしずおかTIP-OFF奨学金関係者の皆様に心より感謝し、奨学生である自覚を持ちながら、これからも目標に向かって努力してまいります。



大学生活について

Y.W (18歳) 広汎性発達障害

私は医療系の大学に通っており、現在1年生です。まず、大学の授業において大変だったことは週に1度の実験とレポートの提出です。実験自体は楽しいのですが、1日中実験をするので疲れやすい私にとっては体力的に辛いと感じることもありました。また、レポートは次の週末までに書いて提出します。私は要点をまとめて書くことが苦手でレポートを書くのにとっても苦戦し、1日中書いていたこともあります。しかし、何度も書くことでレポートを書くコツを掴むことができました。この経験から、苦手なことでも諦めずに続けていくことが大切だと改めて感じました。

次に、大学では自分の特性などを自ら先生に伝えることが大事だということに気づきました。高校では皆が先生と面談する機会があって、困っていることなどを相談しやすかったのですが、大学ではそういった機会がないので、自ら先生にメールで相談させていただいたことがあります。大学では、先生と話す機会を自分で作る大切だと思いました。

最後に、大学生活は想像していた以上に大変なことだと感じました。初めての一人暮らしとの両立も難しく、慣れないことも沢山ありました。上手くいかないこともあるかもしれませんが、大学生活や一人暮らしを自分のペースで続けていけるように頑張っていきたいと思います。



2025年度しずおかTIP-OFF奨学金募集要項

給付額：月額5万円(年60万円)返済不要
給付期間：修学最短期間
募集学生数：毎年5名以内



2025年10月1日募集開始

応募資格

- 以下のいずれの項目にも該当する人
- 各種障害者手帳または主治医の診断書を有し、静岡県に居住する人
- 2025年4月に日本国内の大学、短大、専門職大学、専門学校に入学する人、または在学している人(通信教育は除きます)

詳細は当奨学金ホームページをご覧ください。

